

2020年8月21日

文京区教育委員会
教育長 加藤裕一 様

日本共産党文京区議会議員団
福手ゆう子都政対策委員長

学校給食の牛乳パックリサイクルについての緊急要望

日頃より、教育環境・条件の整備進展に感謝申し上げます。

文京区教育委員会は2020年4月から、区立小学校・中学校における給食にあたり、牛乳パックの解体を教室において児童・生徒の手で行った上で、牛乳パックを洗いリサイクル素材として出すとの方針をとっています。

この方針は、新型コロナウイルス感染症の拡大の中で首相の全国一斉休校要請を受けた学校休校や6月からの分散登校などにより、給食が6月中旬から開始されたことから、1学期については実施が見送られた経過があります。

しかし、児童・生徒に牛乳パックの解体作業をさせることは、様々な問題をはらんでいます。まず、パックを洗う前に解体するのでパック内部の残乳が飛び散ることが想定されます。触れるだけでアレルギーを引き起こす児童・生徒がいる場合、万全の対策を行うには多くの負担が必要となります。解体後に水道やバケツで児童がパックを洗う場合には、水道に児童・生徒が並び「密」な状況をつくることにもなります。その間、児童・生徒が解体した牛乳パックを手で持ち教室や廊下を移動する際、残乳の飛沫が床や机・椅子などに飛び散ることも容易に想定されます。牛乳の飛沫を放置すれば腐臭を放つだけでなく、水分が乾燥したのちに脂肪分が残るなどして、教室や廊下の衛生状態が悪化するので、清掃と衛生状態の維持に多大な労力を要することになります。

また、アレルギーをもつ児童・生徒への対応や一人で解体作業を行うのに困難を抱える低学年や特別支援級に在籍する児童・生徒への対応を教員に求めても、食事後の食器の片づけをする際、教員は配膳台で指導するのが通例であることから、対応ができない状況にあることも指摘しなければなりません。

よって、以下要望いたします。

1. 牛乳パックの処理については当面、1学期と同様とし、児童・生徒の手による教室内での解体処理は実施しないこと。

以上